

ジャグパル

JugPal

2007年5月5日 第37号



インタビュー

【 齋藤 英祐 さん 】

今回は、身体のしなやかで美しい動きと共に、高度なジャグリング技術で観客を楽しませてくれる齋藤英祐(さいとう えいすけ)さんにお話を伺いました。



齋藤 英祐 さん

ヨーヨー

小学生の頃、少年野球とかいろいろやってはみたものの長続きせず、中学生の時にテレビを見て面白そうだと始めて唯一続いたのがヨーヨーでした。

今もそうだけれど、何かやるからには一番になりたいという思いの一方で、自分にしかできないことをやりたいという気持ちが強いです。

ヨーヨーは、一日中練習するといった感じでもなく中学を卒業するまで、なんとなく(遊びとして)続いていました。でもまあ所詮遊びは遊びでそれ以上にはならず、どうしようかなと思っていたその頃にジャグリングと出会いました。

当時の自分からは現在の自分の様は想像もつかなかったのは当然として、ヨーヨーがなければ今の自分はなかったわけで、今思えば(ヨーヨーとの出会いは)大きなきっかけでした。

もしアーティストでなければ…たぶん、すごいダメな人間になっていたと思いますよ。(笑)

サーカス学校

高校生の時に、ヨーヨーをやっていた時に知り合った萩原くん(タカシェンカ)からサーカス学校の情報を教えてもらい、高校生活もつまらなかったし、ジャグリングで仕事ができたら楽しいだろうなあと、学校に体験入学して、そのまま即入学を決めました。

体験入学では、練習内容自体は凄くきつくて、翌日は筋肉痛で立てないくらいだったけれど、今までの学校生活では得られない何かがあると感じたし、これから先自分はどうなるのか分からないけれど、とにかく行きたい!と思ったんです。

練習は厳しくて、入学したての最初の一年くらいは、しょっちゅうケガもして骨折も2回したし、それにも増して三年間くらいは不安でした。

学校に後から入ってきた森田智博くんは、ジャグリングが飛び抜けて上手かったし、高村篤くんはウクライナへの留学と旅立つ中、僕はと言えば真面目に練習はすれどもなかなか実力が伴わずに、そんなせいで西田さん(サーカス学校長)もあまり僕には期待していなかったかもしれないと、今になってそう思ったりもします。(笑)

いい作品も作れないし、伸び悩んでいたこともあって、将来食べていけるんだろうか、これで大丈夫なのかなどと考えてスランプに陥りました。

そんな時、ウクライナのサーカス学校に思い切って飛び込んで、一ヶ月ほどあちらの生徒たちと一緒に練習をしたりして多くのものが得られ、結果的にそれらはスランプから抜け出せるくらいのいい経験になりました。

好きなジャグラー

サーカス学校に入学する一年前くらいに、ヨーヘン・シェル(Jochen Schell)の静岡大道芸のビデオをたまたま見て衝撃を受けました。

当時は技の難しさを追求するジャグリングの形態しか知らなかったのですが、ディアボロにもこんな見せ方があるんだと凄く新鮮で、あっこれをやりたい!と思いました。

それから本格的にディアボロを始め、動きの綺麗なところをできるだけ真似して少しでも近づきたいと練習して、2005年の来日の際には観に行き、演技の雰囲気とか作品の作り方に感激しました。他にはLeonid Petrovski やVLADIK が好きですね。



作品づくり

作品は基本的には自分で作っているけれど、今の作品はオーリヤさん(学校のナジェージュダ先生の娘)と一緒に作ったものです。カンボジアでのサーカスフェスティバル(本号の"カンボジア旅日記"参照)でも披露してきます。

作品を作る時には、まず音楽を決めます。

何かひらめきを感じた音楽にイメージをつけて、こういう表現ができるのかな、と今自分ができている技をベースにして自分なりの解釈をして肉付けをしていくんです。

できない技をそこに当てはめることはせずに、技の一つやるにしてもどう表現するのかを考え、自分なりの表現ができれば、それ以上複雑なことをする必要はないと思うんです。

例えば数をこなす技や、必要以上に複雑な難しい技を追いかけるようなことはする必要はないんです。かと言って技術がないから演出に逃げているように思われるのは嫌なので、もちろん必要な技術は身につけた上での話です。

他のアーティストのいい作品をたくさん観ているけれど、好きな作品は何回も何回も観て飽きることはないのと同様に、何回観てもいいなあと思えるような作品を作りたいですね。



キャラクタ

よく女の子に間違えられるんですよ。

ウクライナでは、髪の毛が長かったせいもあり、コートを着て帽子をかぶっていたりすると、例えば空港のトイレでは入る場所が違くと注意されたり、バスでは「お嬢さん座って下さい」と席を譲られたり。日本でも公演の際に控え室がなくトイレでメイクしたりしていると、入ってきた人にぎょっ!と驚かれたり…。

外見のせいもあるでしょうけれど、パフォーマンスが動きの柔らかさを前面に出しているのが女の子というか、中性的な感じがするんでしょう。

昔はあまり好きではなく自分なり脱却しようとやってきたけれど、むしろ男性でも出せない、女性でも出せない、そういった中性的な柔らかさ(動き)が僕の特徴であり、あまり類がなく新鮮だし、まさに自分にしかできない演技だから、今はこのスタイルが気に入っています。

これから

今後は海外のサーカスフェスティバルに出てみたいです。

そこで世界基準の物差しで自分の作品を見てもらいたい、自分がどこまで評価されるのかわかりたいんです。日本ではあまりそういう機会がないので。

[安部 保範]



レポート

本号のインタビューの齋藤英祐さんが、4月にカンボジアで開催されたサーカスフェスティバルに出演され、その時の模様を日記としてまとめられたので、ここに掲載させていただきます。

【エイスケのカンボジア旅日記】

4月4日

夜中2時半に沢入を出発。そこから6時間かけて成田空港に着く。

空港で西田さんと合流してチェックイン、朝食を済ませる。

途中、トイレでしばらくはこの安らぎの空間ともお別れなんだな、と別れを惜しんだ。

友達や家族に「ちょっくらカンボジア行ってくるわー」とメールを送って、AM10:30、時間通り日本を発つ。

夜中に出発したものの、車や飛行機では相変わらずほとんど寝れず機内ではぼーっとして過ごした。

機内食はやっぱり微妙な味である。約6時間の空の旅を満喫し、ベトナムのホーチミン空港に到着。

機内テレビでドッキリTVがやっていてその影響なのか、実はここは日本で「ドッキリでしたー！」なんてオチないかなあとか思うがやっぱりここはベトナムだった。

3時間程待って、プノンペン行き飛行機に乗る。これが小さいプロペラ機で「プロロロロ...ドカーン！とかなったら面白いよねえ！」と軽口を叩きながらまた40分程の空の旅。

イミグイクいっぱい、車に入いっぱい、道路逆走してる！？なんか薄暗い風景がまた怖い！

カルチャーショックを受ける。いきなり帰りたくなるがもう逃げられない。観念してその日はプノンペンのホテルに泊まる。

4月5日

朝、目が覚めたらなぜかカンボジアにいた。理由はわからないが、きっとあるからいるんだろうな、と寝ぼけ頭で思いつつ朝食を取り、記念撮影をしてホテルを出る。

今日はバタンバンに移動。バスで5時間程揺られる。

進む度に変わる景色に現実逃避したくなりながらバタンバンに到着。更にバス停から愉快的なバイク(タックタック)に乗ってPPS(サーカス学校のあるコミュニティ)へ。

当然日本ともウクライナの学校とも違うが、こちらもちょうどなかなか楽しそうな所だった。

着いたら家を紹介してもらおう。もっとサバイバルな立床式の家を想像していたので予想以上の歓迎というか扱いに内心感謝する。

家に荷物を置いたら学校を見に行く。何人かの生徒が練習していた。やっぱり外人は珍しいのかこっちを見ている。こっちも珍しいので見返してやる。

移動が長かったので体もうずうずしていたのか、天野君とアクロバットを始める。久しぶりのタンピング板は気持ちがいい。

現地の生徒と技の見せ合いをして遊ぶ。転回の次は宙返り、抱え込み、伸身、ひねりになるとこっちはお手上げ。じゃあ次はブレイクダンスだ、と見せると向こうも乗ってきてまた見せ合い。こっちの不利なタンピング系の技になり、



またお手上げだと思ったら次はディアボロだ！とそこら辺にあったディアボロを借りて色々技を見せる。いつの間にかギャラリーができていた。

言葉で語り合えずとも体で語り合ったのか、みんなとも仲良くなっていたりする。

また明日からよろしく！といって別れ、現地の食事(主にフルーツ)を堪能し、家に戻る。

心配してたけど意外となんとかいける！明日から頑張るぞ！と思いながら眠りにつくのであった。

4月6日

もう挫折しそうになった。昨夜は暑くて蚊がすごくて全然眠れず。蚊帳など、ちゃんと対策をして今夜は寝ようと思う。

今日は自分の道具を持って体育館に行く。ここは湿気が多くディアボロの糸や軸が湿気にやられて凄くやりにくい。それにお世辞にも綺麗な場所とはいえないので、糸が汚れやすく、すぐダメになる。

ジャグリングについても湿気は天敵。湿気が多いとリングをキャッチした時に手を弾いてしまう。頑張っても慣れないといけな。

この学校にディアボロを勉強している人が何人かいたので技を見せてあげた。

やはりメイドインジャパンなトリックが好評らしく、教えて欲しいと言われたので教えてあげる。結構複雑な技なので教えるのに四苦八苦するも、原理ややり方はわかってくれたみたいでなんとなくはできている。このまま練習すればできるであろう。

その後は現地の子供とハンドトゥハンドをして遊んだ。土台なんかやった事ないので持ち上げさせられる。軽かったので自分の力でも上がったが...でも筋肉痛になりそう。

今日は蚊帳を作って虫対策はばっちり。明日からフェスティバル本番、頑張ろう。

4月7日

昨夜は対策の効果か、涼しかったのが良く寝れた。

今日からフェスティバル。そして自分達のショーがある日。気合を入れる。

まずは会場チェックから。テントだけど、中は熱気が籠っていて暑苦しい。舞台の床が怪しい感じに凸凹だが、まあ土の上とかではないので許容範囲。

でも一馬の足の調子が悪いのでマットが欲しいらしく舞台上に敷く。当然、その影響を受けるわけで。柔らかめのマット上でのジャグリングは正直凄くやりにくい。

でも彼らの安全を考えれば必要だし、プロならどんな状況でもできないとダメだ！と思うので納得する。

音のチェックと段取りの確認をしてひとまず終了。でも照明などはぶっつけになるようだ。怖い怖い。

その後晩御飯を食べる。今日はとても辛かった。その時凄く辛そうなりアクションをしていたらしく、辛いフルーツを持ってきてくれた。優しさに心打たれた。

その後メイクや着替えなど、準備をする。

時間はPM6:30。予定だと50分からなので丁度いいや！と出陣。

が、テントには明かりもなく、誰もいなかった。

「あれ？今日じゃなかったっけ？」とあっけに取られながら待っていると別の場所から声が。

メインステージの方で挨拶をしている。おいおい...今から始まるのかよ。とがっかりしながら相変わらず人も明かりもないテントで待つ。

途中、自分達の次にやるシンガポールのジャグラーが来る「え？まだ何も始まってないの？」と驚いていた。お互い待つしかないので色々談笑する。30～40分くらいして緊張感が完全に抜けたあたりで人がぞろぞろ、スタッフもやっと来る。

出るタイミングも良くわからず、聞いても「行っていいんじゃない？」みたいな反応だったので天野君に準備をしてもらい、出る事にする。出た瞬間津波のような凄い歓声。なくなった緊張感に響くこの感じ。体がガチガチになってるのがわかる。

まずはリングから。いきなり音が途中から始まる。もう止める事もできず焦りながらスタート。

完全に失敗。手は言う事を聞いてくれないし動きはガチガチ。照明で道具も全く見えずボロボロ落とす。やっと終わってくれた、と言う感じだった。

次はディアボロ。これまた音ミスでしばらく音が出ない。始められずに待機。その間に少し頭を冷やす。音が始まったと思えば小さすぎて全然聞き取りにくい。まだかまだか、と思いながら音が大きくなる所でやっと聞こえる。また焦りながらスタート。

これに関してはもうやり込んでいるので頭の前に体が反応してくれたと思う。動きは硬かったがミスは1ミスで済んだ。でもトスしたディアボロが全く見えなかったので3個はやらずに他のフィニッシュ技で終わらせる。悪いショーだった。でも雰囲気は掴んだので次からはどうにかなると思う。

天野君達も見事に飲まれて大ボカしたらしい。

ショーが終わってまず言われた事は「君は女の子？」と言う事。

相変わらずどこに行ってもそう言われるので、今ではそう言われると勝った気分になる。

「良いショーだったよ」と言ってくれたけど「次はもっといいショーをするよ！」と返す。そう言ったから良いショーをしないとイケないと思う。気持ちを切り替えて頑張ろうと思った。やるぜ俺は！

4月8, 9, 10日

この3日間は自分達のショーはお休み。この間は大体練習していた。前日にショーをやったせいか、みんなに覚えられたみたいで色々話しかけられたり、コミュニケーションをとって友達ができたり、仲良くなる。

こうなるともっといいショーを見せなきゃ、と思う。

話は変わって、ここの人の凄いところは瞬発力が物凄い事。ピョンピョン飛び跳ねている。それはタンブリング板があってもなくても変わらない軽さ。恐怖心などもないのが凄い。タンブリング系の技とかもひねりとかバンバンやる。失敗してもヘラヘラ笑っている。なんて言うか練習と言うよりは遊んでいる感じ。こんな感じでやれているのであれば上手くなるわけだ。

日本とは全然違う。夢や憧れだけが先行して行動が矛盾しているのはやはり違うと思った。

4月11日

今日は二回目のショー。この3日間うずうずしてしょうがなかった。でも前日に雨が降って湿気は倍増。コンディションとしては最悪。

朝、練習に行って調整もかねて基礎を中心に軽めに練習する。体はバッチリ、でも湿気にやられて道具の具合は良くない。

昼に家に戻って、その日の午後はバタンバンの街を観光しに行く。何箇所か回って写真を撮ったりした。面白い所だと思う。

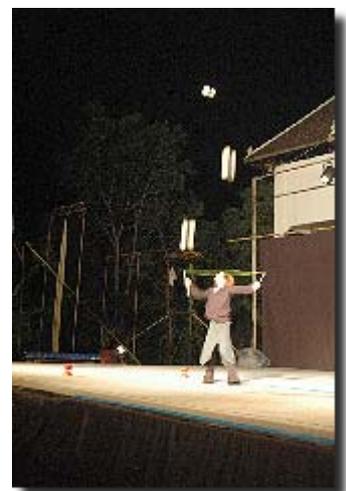
帰って少し休んで、また少し練習する。その後はディナーを食べてそのまま今日の準備。

本当は別の場所だったが、雨のためで今日もテントになった。前やっているから具合もわかっているし、逆に好都合。着替え、メイクをしてテントに行く。相変わらず時間や順序が滅茶苦茶で、2番手のはずなのにトップだとか言われたのでしょうがなく準備をしてもらって出る。

少し音響が詰まっていた舞台上で待ったが、今日は落ち着いている。

「こりゃあいい感じ」と思いつつ、音楽が始まったので演技を始める。

多少硬さが残っている感じはしたが、今日は動けている。道具も見える。ミスもなく、順調にこなしていたら、電気が落ちた。



ステージは真っ暗。何も見えない、何もできない。
せっかく高まってきた気分や集中力が一気に切れ、変に呼吸のリズムが狂ったので疲れがどっとくる。最悪だ。1~2分くらい真っ暗なステージで待たされる。
電気がつくが、当然あの後の音はないので無音で続ける。ミスはしなかったが動揺はしていた。
そのままディアポロへ。ある程度の集中力はキープしていたが、中盤あたりで苦しくなってきたつまらない所で2~3回落とす。最後の3個は成功したが、決まってくれた。と言った感じ。
言い訳したくなる状況だったが、ぐとこらえてこれは自分自身のミスと考えなければならない。
表向きヘラヘラしていたが、内心がっくりきていた。
この後出演者のサプライズパースデーパーティーがあって、ケーキをぶつけられ衣装が汚れた。
こういうのは本当に勘弁して欲しい。
その後イライラしながら衣装についたケーキをなんとかふき取り、「信じられない」と何度もぼやきながら家に帰りふて寝する。

4月12日

夜中、イライラしてるのにその日に限って蚊が刺してくる。もう全てが最悪だと思いながら起きて寝てを繰り返しながら朝を迎える。
最悪を通り越したら全ては諦めが変わっていた。
幸い、昨日根気よく拭き取ったおかげで衣装はひどい事にはなっていない。洗濯も考えたが前日が雨だったので洗わなかった。実際この日少し雨が降った。
朝、メインステージで最終日のファイナルセレモニーの練習をする。ついでに今日のショーはステージなので場所の確認もかねる。雨のため床が濡れて滑る。少しアクロバットが怖い。
特に問題なく練習を終えて、昼まで友達と遊んでいた。
昼からものんびり過ごして4時前からストレッチや練習を軽めに行う。
6時くらいにディナーを食べ終わって準備。
相変わらずスケジュールは滅茶苦茶。予定時間より1時間くらい待つ。でもここまで来たらもう何にも動じない。準備をしてもらって舞台上がる。
今日はメインステージで、一馬のためのマットも使わない。舞台に立つまでわからない照明もテントに比べれば見やすい。気分も舞台に上がった瞬間から不思議くらい落ち着いている。後は電気さえ落ちなければ最高の状態。
3回目、最後のショーはリカバリーミスが2回。実質ノーミスで終わることが出来た。電気も落ちていない。自分の中では70点くらいの出来。けど、最後の最後で今回一番いいショーができた。

今回のフェスティバルで、西田さんと先生に自分の出せる全てを見せたかった。自分の中では70点だったけども良いショーが出来たと思う、それで2人はどれくらいの点数をつけただろうか？

そればかりは自分で聞くのは野暮なので聞かないことにした。

でも、この自分の姿が2人にとって誇りに思えたのであれば自分は満足できるであろう。そして、これからも僕は2人の誇りになりたいし、誇りでありたいと思う。

ショーが終わった後はファイナルセレモニーのリハ。11時を過ぎたところで明日に持ち越しになる。

4月13日

今日は最終日。朝からリハーサル。大体の流れを確認し、OKサインが出た所で解散。なんか今日は練習場も人があまりいなくてのんびりしていた。



昨日で気が抜けたのか今日はあまり体調が良くない。でも今日で終わりだと気合を入れる。
夜からはショー。準備をして待つ。早く来すぎたのか、押してるのか、とりあえず待つ。
ショーが始まればあれよあれよと進んでいく。
自分の出番が来て、やりながら考えるような即興ルーティンを決めて、なんとか終わらせた。
本当にフェスティバルが終わってしまった。長いようで過ぎてしまえばあっという間。さらに気が抜けたのか。
気分は最高に悪くなる。
その後はパーティー。気分が悪くて飯は喉を通らず、もう11時で眠いのにな夜のダンス会場に連れて行かれる。
踊る気にもなれず、「本当にもう眠いし気分も悪いから勘弁してくれ」と死にそうな顔で訴えたらなんとか帰してもらえた。ノリが悪くてもの凄い嫌な奴のようだが、死にそうな顔で訴えていた時、本当に心配そうな顔をしていたのでお互い様かもしれない。
疲れたのでおやすみ...といきたかったが、その夜は腹痛と戦っていた。

4月14日

帰国の日。日本には無事に帰ってはこれたが、お腹は昨日の夜から常に黄色か赤信号。
これを書いている日(16日現在)未だにお腹がゆるゆるである。

とにかく、この旅はとても苦労したけどそれだけ楽しい旅でした。
こうやっているんな人の前でショーをやって、いろんな人と出会う。
この世界に入って、一番良かったと思える瞬間だと思う。
これは終わりではなく始まり、もしくは通過点。
まずはお腹をどうにかして、これからたくさんの人に良いショーを見せられるようにしたい。
ありがとうございました。

[齋藤 英祐]

早めの編集後記

『こどもの日スペシャル』というわけではないけれど、37号と38号の同時発行です。何故って？
いや、単なる気まぐで特段理由はないです(汗)。
齋藤英祐さんインタビュー カンボジアサーカスフェスティバル カンボジアサーカス学校来日公演とつながって、何だか本号は『カンボジア特集』みたいになってしまいました。
カンボジアと言えば、アンコールワット、ポルポトそして地雷が思い浮かびますが、カンボジアの歴史はウィキペディアなどで読んでもはっきり言って複雑怪奇でよく分からん!? (^_^;)ゞ
内戦で彩られた歴史と言っても、大国や近隣諸国の思惑で、本国の意志とは無関係に翻弄され続けたようで、どうにもすっきりしません。
そう言えば二十年ほど前に、新聞(ニューヨークタイムズ)記者の内戦下での実体験を元にした「キリング・フィールド」なんて映画がありました。当時何も予備知識無しで見たので単にもう二度と見たくない映画としか覚えていませんが、カンボジアのこと少し勉強してみようかな、と。
また近年年間に百数十万人(日本からは20万人弱)もの観光客が訪れるようになり、環境破壊といった新たな問題が浮上しているようです。災難続きの国ですねえ。でもサーカス学校の子供たちはきっと明るくパワフルな演技を見せてくれることでしょう。期待してます。
ジャグパルは私という一個人が野次馬根性丸出しで、単なる趣味として発行して、特定の企業団体あるいはパフォーマー個人に関係しているものではありません。
編集発行人: 安部保範(神奈川県横浜市栄区 在住)
Webサイト: JugPal <<http://www.chansuke.net/jugpal/>>
見世物広場 <<http://www.chansuke.net/>>
E-mail: misc@chansuke.net



イベント情報

齋藤英祐さんがカンボジアのサーカスフェスティバルで共演したPPSの仲間たちが日本にやってきます！カンボジアのサーカスってどんなんでしょう？
楽しみ、楽しみ

【カンボジア・サーカス学校日本公演ツアー】

カンボジア第二の都市バットアン州のオチャ市アンチャン村という所に、Phare Ponleu Selpak (ファー・ポンルー・セルパク ~ 通称PPS) というコミュニティがあります。ここにはサーカス学校、音楽学校、絵画学校などがあり、NGOなどから援助を受け、これらアートを通じての教育を実践し、子どもたちの育成、自立に寄与しています。

今夏、このサーカス学校の公演が日本各地で行われます。

サーカス公演は2001年に、プノンペンで行われ、メディアに大きく取り上げられたことでカンボジア国内での知名度があがり、2003年、2005年そして2007年でのフランス公演で大成功を収めています。

カンボジアのサーカスは、アンコールワットに曲芸の様子が描かれたフレスコ画が残っているほど古いようで、大道が宮廷で演じられていたのでしょうか、今回はどんな内容になるのか楽しみです。

主催：NPO法人国際サーカス村協会

後援：カンボジア大使館

制作：(株)アフタークラウディカンパニー (ACC)

問い合わせ：ACC <info@accircus.com>

主催者からのコメント：

(日本公演作品について)

カンボジアのストリートで、たくましく生きる子どもたちの休日を、サーカス技と、カンボジアの伝統楽器による生演奏で、ユーモアたっぷりに見せます。純粋に“生きる”ということのエネルギーが、子どもたちの生き生きとした表情から感じられます。旗を使ったスピーディーなアクロバットなど、優れた身体能力を観ていただくのはもち論のことですが、彼らの発するエネルギーから元気をもらい、カンボジアの、世界の子どもたちの輝く未来と一緒に共有していただけたらと思います。

公演スケジュール

7月24日(火)来日

7月26日(木)浦添市民会館(予定)

7月27日(金)~29日(日)沖縄市キジムナー・フェスタ参加

8月2日(木)~3日(金)太宰府市中央公民館

8月5日(日)慈学院(広島市内)平和の鐘の集い参加

8月6日(月)広島市青少年センター

8月7日(火)~8日(水)京都府立府民ホール・アルティ

8月9日(木)~10日(金)クレオ大阪中央

8月11日(土)~12日(月)白州アートキャンプ

8月14日(火)群馬県みどり市笠懸文化会館

8月15日(水)~16日(木)東京都児童会館

8月18日(木)帰国

